

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)木津川市相楽台1丁目PJ 新	階数	地上3F
建設地	京都府木津川市相楽台一丁目4	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	0人
気候区分	S地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 0.0	評価の実施日	2015年3月18日
敷地面積	8,024 m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇
建築面積	1,607 m <sup>2</sup>	確認日	2015年3月18日
延床面積	4,758 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇

<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>
<p>BEE=1.1 ★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 0%                  ②建築物の取組み -3.63%                  ③上記+②以外の -37.63%                  ④上記+ -37.63%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

<b>2-4 中項目の評価(バーチャート)</b>		
<b>Q 環境品質</b>		
<b>Qのスコア= 2.6</b>		
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.0 	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 2.1 	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 2.7 

<b>LR 環境負荷低減性</b>		
<b>LRのスコア= 3.6</b>		
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 4.5 	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.8 	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.2 

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
自走式の立体駐車場の一般建築物(閉鎖型建築物)ではなく、開放性のある建物として設計し、換気設備や、建築材料(内装)の使用を極力無くした設計をした。		特になし
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
換気設備を設けずに、自然換気が出るように外周部に十分な開放性のある外壁面とした。	外装設計において防錆対策として溶融亜鉛メッキ仕上げを採用	敷地内の空き地は極力植栽を配置した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
外壁部の開口を開放とすることで自然換気、自然排煙、自然採光を積極的に利用した。	構造部材と仕上げ材が容易に分解できる構造としている。	道路沿いには極力植栽を配置し、養育に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される